



特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊 会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報 Vol. 11

平成 22 年 9 月 10 日

発行：理事長 山崎健一郎

TEL & FAX 0742-41-7839

編集（広報担当）：副理事長 馬場英彦

TEL & FAX 0743-75-1685

E-Mail bamba@m4.kcn.ne.jp

巻頭言



（理事長 山崎健一郎）

今年の猛暑と世界各地で発生している異常気象は「温暖化」に対する地球の警鐘（叫び声）にも聞こえる。

GMSも、5月20日に第8回総会を開催して、平成22年度がスタートした。総会終了後の懇親交流会では、ご出席頂いたご来賓の方々から、我々の活動に対する期待と過分の評価を頂き、その責任の重さを痛感し決意も新たにしました。

最近の日本の経済・政治を取り巻く環境の厳しさは、解決の糸口が見出せず、益々混迷の度を深めている様に思う。

この様な状況の中、我々はどう生きて行けばよいのか？GMSの活動はどうあるべきか？その答えは「自問自答」により、見つけ出すしかないと感じている。自問自答の拠り所になるのが、これまでに学んで来た、歴史や先人の教え等である。

私は現役時代、人前で話をする時のために「自分の心に残った格言・言葉等」を書き留めており、それが、折々自問自答する時の役に立って来た。その一端をご紹介させて頂き、これからも自問自答を大切に行きたいと思っている。

1) 第2の人生を模索している時にめぐり会った本草原の椅子（上・下）著者 宮本輝

阪神淡路大震災で家を失った著者が、地震から半年後に、シルクロードの旅に出、その間考えた事は、「大人」とはどのような人間かと言う問題だった。「草原の椅子」は正に「自問自答」の小説である。

2) リーダーのあり方（ドラッカーの言葉）

事業は一人の力で成功することはない。人に協力してもらって初めて事業は成功する。協力を得られるのは、鋭さではなく人格である。実力ではなく、品性である。

第8回総会が開催されました

（理事 竹内宏一）

平成22年度の年次総会は、去る5月20日に開催され、平成21年度（第7期）の事業報告並びに事業会計収支決算の承認と平成22年度（第8期）事業計画および事業会計収支予算が承認された。

定刻の6時15分、司会の中尾都史子理事から定款27条により、出席者と委任状提出者の合計が5月20日現在正会員の過半数を超えており総会は成立している旨の報告があり、総会議長に山崎理事長が選出された。

次に議長から特定非営利活動法人チャレンジ企業支援隊・第8回総会の開会宣言があった後、議事録署名人として、石田副理事長と竹内理事の二名が選出され議事に入った。

第1号議案・第7期の事業報告並びに事業会計収支決算の承認及び監査報告の件

会計担当の竹内理事から平成21年度の事業成果、会計財産目録、貸借対照表、収支計算書について報告があった。次に小島直之監事より、監査報告があり、採決を求めた結果、第7期の事業報告並びに事業会計収支決算は承認された。



第8回定期総会の様子

第2号議案・第8期事業計画および事業会計収支予算承認の件

続いて、竹内理事から山崎理事長が示された平成

22年度の重点事業5項目の具体的な活動計画と、会計収支予算について趣旨説明があり、採決を求めたところ全員一致で、第8期事業計画および事業会計収支予算は承認された。全ての議案が議決され6時40分第8回総会を終了した。

次の第2部は、ご招待者にもご出席頂き、馬場副理事長からパワーポイントで「平成21年度の事業活動について」報告並びに紹介があり、参加者からは多岐に亘る活動成果に対して高い評価を頂いた。

午後7時からは恒例の懇親コーヒーパーティーが開催され近畿経済産業局・地域経済部・須山稔次長様並びに関西産業活性協議会・大槻眞一理事長様などご来賓から激励のご挨拶を頂いた。

その後は、参加者全員和気藹々の内に懇親を深めて戴き、最後に柏木理事の発声で、平成22年度のチャレンジ企業支援隊の新たな飛躍を祈念し、8時30分終宴致した。

奈良県との協働事業で

「NPO法人設立支援セミナー」を開催

(副理事長 マーケティング部会長 馬場英彦)

これは、平成22年度の「奈良県とNPOとの協働事業補助金制度」に応募し選定を受けたセミナーである。

<主旨と経過>

奈良県には現在、約360のNPO法人がある。しかしながら実際に活動せず休眠状態の法人もかなり多いと聞いている。その理由は、主体的に活動するスタッフがいなくなった、資金や経理が廻らなくなった等、人材やマネジメントの基本が発足当初より脆弱な場合が数多く見受けられる。そこで、NPO法人の円滑な設立及び運営を中心テーマに、奈良県くらし創造部・協働推進課とセミナーの企画を2週間に1度の打ち合わせを行い実施の運びとなった。

<対象別に3回のセミナーを開催>

1回につき、2日間開催する。第1日目はどのコースも共通で、NPOの基礎、設立手続き、マネジメントの基本を学び、第2日目には経験豊富な先輩NPO法人に学び、さらに具体的な情報交換を実施している。

セミナーの概要は、第1回は主に主婦を中心にボランティアグループからNPO法人の立ち上げを目指す人を

対象として、6月25日(金)・26日(土)に実施。第2回は定年後の生きがいの場として、企業OBを対象とし、7月3日(土)・4日(日)に実施。どちらのグループも約30名の参加者があった。



成田前理事長・竹内理事が熱く語りかける

第3回は10月30日(土)・31日(日)を予定しており、対象は学生や若者の「起業」に焦点を当てて企画している。会場はいずれのセミナーも奈良県立図書情報会館。

GMS 経営勉強交流塾 5周年記念事業

—中国実状調査勉強交流塾報告—

(理事 モノづくり副部会長 阪本徳男)

1. 目的

一昨年の国際金融危機を政府指導でインフラ整備など4兆元(約58兆円)の内需拡大策を実施し、世界に先駆け危機を脱ししつつある中国、2009年のGDPも+8.7%を達成した中国、一方で民主化運動・民族問題・格差拡大・元高圧力・民主化・ネット規制問題に揺れる中国。この中国の一部でも理解するため、現場第一主義で、北京を訪問し今後の企業活動の大きな支えとすることを目的として実施。

2. 日時 2010年6月3日(木) 出発、6月6日(日)

帰国の三泊四日の北京視察旅行調査

3. 調査団構成 企業様4名とGMSメンバー4名の計8名



北京国貿駅(地下鉄)通勤風景

4. 中国実状調査勉強項目と結果

1) 中国・北京を知る。□移動は公共乗り物、北京の人たち、旅行者の姿を自分の眼で見た。天安門広場、故宮、頤和園を見学し中国の凄さを勉強した。□司馬台長城を登り、漢民族と満族の戦い、歴史を知った。

2) 中国政府機関、中国技術企業を訪問

訪問が困難な政府管轄研究所、中国のシリコンバレー中関村の技術系中国企業を訪問して、電子技術産業と標準化状況とJV企業の実態、産学連携、中国独自技術の進展の在り方を勉強した。上記訪問を通じて、中国での人脈構築の必要性、情報交換の方法、USB 情報入手の方法を体験した。

3) 参加者の感想

□中国の歴史の偉大さと13億の民を擁する国力と懐の大きさ□訪問企業の高い情報分析力と技術力の高さ□適格な世界情勢把握と政府主導の産官学連携技術開発推進□現場での親密な人間関係がビジネス推進の基本□日本政府、日本企業としては、中国で受け入れられる、共存共栄のスタンスでの関係づくりが最初の取り組み

奈良県下地域産業へのデザイン支援活動

(理事 マーケティング部会副会長 辻谷禎弘)

現在、宇陀商工会様からのご紹介で、意欲的に事業を推進されている2社のデザイン企画を支援中である。

1) 森庄銘木産業(株) ホームページ・カタログ他

前年度にPRの基本デザイン要素となるロゴ・マーク表現コンセプトを提案し、号外チラシや展示パネルシリーズ、名刺ツールを具体化しているが、本年度は従来のホームページを一新し、併せてカタログの企画を進めている。9～10月に完成予定である。

2) よしおか三輪手延べ

そうめんポスター・包装紙他

(株)芳岡様は、温暖化の進む環境を避け、そうめん製造に最良の宇陀の山里で昔ながらの「二昼夜寒づくり」によるこだわりの「三輪手延べ素麺」を作っている。小規模



限定製造ながら、新販路開拓に積極的で、ロゴポスター、包装紙類、葉(製法の解説パンフ)などのデザイン企画・制作の要望に鋭意取り組んでいる。

コーディネート: 南部 デザイン企画: 辻谷

HRM定例会がスタート

(理事 HRM部会長 中尾都史子)

HRM部会では、昨年に引き続き、追手門学院大様のキャリアデザイン論を担当している。今年は、新たに岡田佳久氏、北村修一氏が加わり、テキストの大幅な内容の刷新やレクチャーの作成など、これまでよりもより内容の濃いものに仕上がっている。

当部会は、人材育成や人事制度構築への助言・提案、大学生向けのキャリア教育・インターンシップの企画運営などを支援活動の柱としているが、これまではキャリア教育以外の項目については、支援活動が出来ていなかった。

そこで、今後、大学生向けのキャリア教育以外の支援活動や、他部会との連携を深めていくために、7月5日に「第1回HRM定例会」(参加者7名)を開催した。



第1回HRM定例会の様子

「今後の活動について」をテーマに、参加者の自己紹介、山崎理事長よりHRM部会の流れやこれまでの活動状況の説明の後、成田特別顧問からは、関西ビジネスインフォメーション(株)様との共同プロジェクト「追手門学院大学 キャリアデザイン論」について説明があった。その後、新しいテーマについて話し合い、中小企業対象の社員教育にターゲットを絞り、研修一覧表を作成する事にした。勿論これまで蓄積してきた大学生向けのキャリア教育のノウハウも多方面で活用できないか等の検討や活動も行っていく。今後も、定期的にHRM部会を開催していく予定である。HRM部会のテーマに関心のある方の積極的な参加をお待ちしている。

けいはんなまちづくり協議会の活動報告

(まちづくり協議会 事務局長 安田正一郎)

けいはんなまちづくり協議会（正式名：けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会 略称：S L E）の事務局を引き受けて早1年が経った。

当初活動内容については手探り状態だったが会員企業の皆様はもちろん、精華町役場、(財)関西文化学術研究都市推進機構の皆様のご支援、ご協力をいただき、①人材 ②地域交流 ③インフラ について協議会として改善を図ることで方向が決まり、少しずつではあるが内容も充実して来た。以下取り組み事例について紹介する。

1) 人材育成について

①企業紹介・人材確保のためHPを作成 ②就職フェア、セミナーなどのメール配信を行い各企業も積極的に参加 ③今年度は管理職育成研修を計画中

2) 地域交流について

①協議会を「精華町のクリーンパートナー」に登録し地域の美化運動を推進



清掃活動後に参加者集合（6月16日）

②世界一の日時計広場で北極星に向けてレーザー光線の試射会を開催 ③精華町消防署と連携し「普通救命講習」を開催 ④精華台自治連合会にオブザーバー参加

3) インフラについて

①京都府府民公募型事業に街灯増設申請 ②バス停の改善依頼（バス会社に要望済）など
まだまだ改善すべき点は多々あるがこの活動を進める中で地域の自治会の方々が常に参加いただけるようになってきたことは今後の協議会の取り組みに大きな力となる。

H22年度 障害者働きがい支援事業をスタート

(理事 事務局長 南部英治)

障害者の自立をめざした、平成22年度障害者働

きがい支援事業を6月より始めた。これは奈良県が授産施設など障害者の働く事業所を対象に、平成19年度から取り組んでいる**工賃倍増5カ年計画**の一環である。NPO法人社会就労事業振興センターを通じて『就労収入向上支援』を行うもので、今年で3年目となる。対象は今年支援希望のあった10事業所と、これまでフォロー支援をさせて頂いた20事業所の計30事業所となるため、昨年より約2ヶ月早く活動をスタートした。

<今年支援チームが目指しているのは>

1) それぞれの事業所の思いを確認し、お互いの知恵を出し合い、中期の取り組みをより早い時期に具現化させること。又、個々の事業所に必要と思われる「経営マネジメント」「5S活動など生産性の向上」「ブランド構築、販促、イベントの取り組み方などのマーケティング活動」「接客マナー研修」などのスキルレベルの向上を念頭において推進する。

2) **フォロー支援**としては昨年、一昨年に個々の事業所ごとに作成された計画と実績の対比を行いながら出来たこと、出来なかったことの内容を再確認し、対処していく。

今年度の10事業所は、課題も明確で取り組み案も出来ており、支援チームとしては今までの経験を生かし、事業所が計画したことが着実に実行され、実績につなげられるよう支援していきたい。

「発信！NPO フェスタ」にGMSが協力出展

(理事 マーケティング部会副部長 辻谷禎弘)

7月4～10日の1週間にわたり平城遷都1300年祭に賑わう平城宮跡会場交流広場交流ホールで奈良県下のNPO団体が参加する「発信！NPO フェスタ」が開催された。GMSでは、シリーズで開催中の



一目瞭然に目立ったGMSの展示

NPO 設立支援セミナーの参加者募集と併せて我々の活動内容をパネルで展示紹介した。7月8日～10日の3日間で多数のご来場者があった。

コーディネート：馬場・南部 デザイン企画：辻谷